Culture,
Energy
&
Life

CEL

Volume 105 November 2013

特集／スローなまち暮らし
平成25(2013)年11月1日発行
頒価／1,000円(送料別途)

発行
大阪ガス㈱
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人
木全吉彦

企画・制作
豊田尚吾

編集人
西田裕一

編集
㈱平凡社

Art Director
岡本一宣

Design
岡本一宣デザイン事務所

校正
㈱アンデパンダン

DTP制作
㈲ダイワコムズ

印刷・製本
㈱東京印書館

お問い合わせ窓口
大阪ガスビジネスクリエイト㈱
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for
Culture, Energy and Life
©2013 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複写※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌・バックナンバーのコンテンツやエネルギー・文化研究所(CEL)の活動内容は、インターネットホームページでご覧になれます。

CELホームページ→ http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/

CELからのお知らせ

『毎日新聞』(大阪本社版・夕刊)に、所員のコラムが連載されています。

『毎日新聞』大阪本社発行の夕刊(関西エリア)の生活情報コーナーに、CEL所員が交替でコラムを執筆しています。タイトルは「日々の色」。暮らしや生活のなかでのさまざまな気づきをテーマに、4月5日より隔週金曜日に掲載されています。これまで掲載されたコラムは、エネルギー・文化研究所のFacebookページでご覧いただくことができます。

CELフェイスブックページ→ https://www.facebook.com/osakagas.cel

CELからのメッセージ

Message from CEL

スロー・スロー・クイック・クイック?

大阪ガス㈱
エネルギー・
文化研究所 所長

木全 吉彦

Kimata Yoshihiko

「スローシティ」という言葉の持つ清新な響きに魅せられて、本号の特集テーマを「スローなまち暮らし」としました。

瞬く間に世界を席巻した「ファストフード」にNOを突きつけ、地元の食材や伝統的な食文化を守ろうとしているイタリア発の「スローフード」運動。その延長線上に「大都市では望めない質の高い暮らし、ゆったりした時間と人間らしい大きさを保持する小さな町」(島村菜津、本号6〜10頁)がスローシティです。

しかし、私たちは一定の条件を満たす特定カテゴリーの小都市にフォーカスしようとしているのではありません。都市に住み、学び・働き、遊ぶ人々が近未来にどのような「まち暮らし」を望むのか、都市はその期待にどう応えられるのかを考えてみたかったのです。

昨今、世界最速で進む少子高齢化や福島原発事故後のエネルギー制約など、社会課題を踏まえた都市のあり方が議論されています。周縁部へ拡大した都市の版図(はんと)を縮小し、中心市街地に居住空間を再配置するコンパクトシティ、ICTによりエネルギーの需要と供給をきめ細かくコントロールして省エネルギーを実現するスマートシティなど、各地でさまざまな取り組みが行われています。

「効率」を追求するこれらの試みとは異なるアプローチとして「スローな暮らし」を置くことで、高齢化、人口減少、防災・減災など都市が抱える課題と、QOL(生活の質)を高めたい都市居住者の潜在ニーズとがつながり、WIN-WINの解が見えてくるのではないでしょうか。

歴史や伝統を受け継ぎ、人間の鼓動や自然のリズムと同期する「スローなまち暮らし」は、自立自足で無理や無駄のないライフスタイルですが、決して懐古趣味や、内向き・不活発なものではありません。効率を物差しとせず、手間を惜しまない「スローな人々」は、異質なものや人を受け入れ、思いやり、手を携えてよりよい「まちづくり」に貢献してくれるはずです。ピンチはチャンス。今こそ、官・民が一体となって地域の資源を生かし、「スロー」な要素を取り入れた魅力的な都市を目指す好機かもしれません。